

■民間保育園における実態把握のためのアンケート調査（H28.12月実施）結果の分析 ～ 公立・民間保育所の比較 ～

		公立	民間	公立・民間の差
1	障がい児の受入状況	定員に占める障がい児の割合 第1(3.6%)、第2(8.3%)、第3(5.8%)	民間での最高は5.3%、次いで5.0%、 4.7%。	民間園で障がいのある児童を受入した場合の補助制度を創設後(H24～)、民間園での受入が広がっている。
2	職員の研修等の受講状況	研修計画に基づき受講。夏季を中心に実施。	民間園でもキャリアに応じて積極的に保育士に研修を受講させている様子が伺える。特に1年目の保育士などには必要な研修を積極的に受講させている。	民間園では新規採用者の積極的な研修実施のほか、キャリアに応じた研修など、それぞれの取組内容や実施回数の考え方に独自性がみられることが特徴。公民に大きな差は見られない。
3	給食業務	職員が調理 アレルギー対応(基本除去食)	民間園では7園中4園が業者委託をしているが、いずれもアレルギー対応は実施。	公民ともに自園調理だが、民間は業者委託がみられる。アレルギー対応では差は見られない。
4①	保育士以外の配置状況	全園に看護師を配置	看護師配置あり 7園中2園が配置	看護師配置に公民の差あり
②	看護師配置がない場合の対応	—	応急処置、保護者への連絡、タクシー、救急車搬送など	看護師の配置がない場合、応急処置や救急要請、保護者への連絡、また、判断が難しいときの対応など、適切に対応できるよう予め対応が取り決められている。
5	保育士の年齢構成	常勤は各年齢層に分布。 民間に比べて、非常勤やアルバイトの雇用が多い。	民間園は20代の常勤の保育士が多いことが特徴。 指導的立場にある主任保育士をはじめ少数のベテラン保育士が存在するバランス。	年齢構成では民に20代の保育士が多く、公立では各年齢層に分布しているなど、公民でそれぞれのバランスに特徴がみられる。 非常勤は公民とも40代、50代が大半を占めている。
6	保育士の勤続年数	10年以上が多い。	民間園の常勤はそれぞれの年齢構成によってバランスが取れている。	公民とも10年以上の保育士が存在し、民間園によっては公立なみの園もある。
7	特徴的な取組	地域交流、音楽鑑賞会など 民間園の取組を参考に、H27年より体操教室を開始	体操、サッカー、絵画、リトミック、スイミング、英語指導など多種多様な取組が特徴。	公民ともに独自の取組を実施。 民間園では英語、スイミングなど各園の特色がみられる。
8	費用負担	制服をスモックとしているため、比較的安価	制服等を除けば、公立・民間とも大差はないが、制服等の導入の仕方によって民間園の間でも金額の差がある。	制服の金額、体操服の有無などによって、公民また民間の間でも差がみられる。 低所得世帯(生活保護世帯)への一部実費負担の支援は制度化H28～
9	主食の取扱	持参	主食費を徴収している場合がほとんど	公立園の厨房設備に課題。
10	遠足	—	—	特に差は見られない。

